

2025年度同済大学・立命館孔子学院合同セミナーシンポジウム

AI 人工知能の 社会実装の推進と ガバナンス

参加無料・ハイブリッド開催
(要事前申込)

11/8 土

13:00-16:30

グラングリーン大阪北館5階
JAM BASE CONFERENCE 5-1
+ Zoomオンラインライブ配信

基調講演



交差分野のAI研究について
孟 林氏 (立命館大学理工学部教授)



AIによる分野のイノベーション発展の推進
—ビッグデータ時代におけるAIアルゴリズムとその応用—
関 紅氏 (同済大学計算機科学与技术学院教授)



AIが国際危機管理に及ぼす影響と国家的対応
鍾 振明氏 (同済大学政治与国際関係学院教授・副院長)



先端科学技術ガバナンスと人間社会
—AI時代における人間の尊厳・権利・責任の未来—
川村 仁子氏 (立命館大学国際関係学部教授)



* 講演は日本語または中国語・同時通訳で行われます。

主催：同済大学、立命館孔子学院大阪学塾 協力：大阪市、立命館大学 後援：中華人民共和國駐大阪総領事館

お申込み・お問合せ

立命館孔子学院

603-8577京都市北区等持院北町56-1 立命館大学アカデミア立命21内
TEL: 075-465-8426 FAX: 075-465-8429 E-MAIL: koza@st.ritsume.ac.jp

2025年度 同済大学・立命館孔子学院合同セミナーシンポジウム 人工知能の社会実装の推進とガバナンス

基調講演・パネリスト

1 交差分野のAI研究について

日本語

近年、画像処理技術と人工知能（AI）の融合は急速に進展し、医療、交通、製造、セキュリティなど多様な分野で革新的な応用が広がっている。本講演では、画像処理AIの基盤を構成する主要技術——画像認識、画像生成、画像セグメンテーション、物体検出、異常検出——を概観し、我々の研究に基づく具体的な応用事例を紹介する。とりわけ、AI導入の出発点となる学習データの構築から、モデルの選定・実装に至る一連のプロセスを、実際のケーススタディを交えて解説する。さらに、我々が取り組んできた先端AIモデルの圧縮技術や、その成果を活用した人文科学、医工連携、農業、工業といった多領域への交差応用研究について紹介する。



孟林
MENG Lin

立命館大学
理工学部
教授

専門分野はコンピュータアーキテクチャ、人工知能（AI）、IoTなど

2 AIによる分野のイノベーション発展の推進 —ビッグデータ時代におけるAIアルゴリズムとその応用—

中国語・同時通訳

本報告書では、主にマルチモーダルデータ融合技術、因果関係の発見、異常検出、分野特化型の大規模モデルなどを含むAI基礎研究を紹介し、さらにAIが業界分野に革新をもたらす応用事例を解説します。主に、AI+シティガバナンス（基礎社会ガバナンス、スマート交通など）、AI+産業最適化（サプライチェーン、スマート製造、スマート建設、金融など）、AI+分野別研究（スマートオーシャン、バイオ医薬など）および将来の発展に伴って生じる可能性のある社会的ガバナンス上の課題についても取り上げます。



関 佶紅
GUAN Jihong

同済大学
計算機科学与技术学院
教授

研究分野はビッグデータの管理・分析およびインテリジェントサービス、人工知能、マルチモーダルデータの統合など

3 AIが国際危機管理に及ぼす影響と国家的対応

中国語・同時通訳

人工知能は、新たな科学技術革命の中核的な原動力として、国家間のパワーゲームの様相を大きく再編しつつあり、危機の早期警戒、意思決定、および対応といった重要な局面において、国際危機管理に影響を与えています。国家は、人工知能技術が国際危機管理にもたらす課題に対応するために、一方では、「能動的エンパワメント」を通じて人工知能を活用し、危機対応メカニズムの最適化を図るとともに、リスクの早期警戒機能と危機管理能力を強化する必要があります。もう一方で、「AIの悪用防止」の観点から、国際的な人工知能ガバナンス体制の構築、危機管理における国際協力と情報共有の強化、倫理的・法的枠組みの整備、そして信頼と協力に基づく国際秩序の構築を推進することで、人工知能が危機の誘発や紛争のエスカレーションを引き起こす潜在的なリスクを、効果的に回避することが求められます。



鐘 振明
ZHONG Zhenming

同済大学
政治与国際関係学院
教授・副院長

研究対象は同盟理論と同盟戦略、国際安全保障、中国の周辺外交、アジア太平洋地域の安全保障など

4 先端科学技術ガバナンスと人間社会 —AI時代における人間の尊厳・権利・責任の未来—

日本語

私たち人類は常に科学技術に対して、人間や社会が抱える問題を解決してくれるかもしれないという希望と、人間の価値基盤や社会、地球環境をも破壊するかもしれないという畏れを抱いてきた。人間と科学技術の未来を考える上で重要なのは、科学技術の発展は目的ではなく、人間の生活と能力を豊かにする手段であることを忘れてはならないということである。今回は、近年注目されるAIが人間の尊厳や権利、法的責任体制にどのような影響を与えるのかを紹介しつつ、人間がそれをいかに利用・管理するのか、何よりも私たちは将来的にどのような社会を目指し、そこでAIにどのような役割を担わせたいのか、つまり科学技術と共に生きる社会の理念について議論したい。



川村 仁子
KAWAMURA Sato ko

立命館大学
国際関係学部
教授

専門分野は国際関係学、国際行政学、国際関係法

会場アクセス

グラングリーン大阪北館5階
JAM BASE CONFERENCE 5-1
■JR「大阪」駅より徒歩7分



お申込み・お問合せ

立命館孔子学院

〒603-8577京都市北区等持院北町56-1 立命館大学アカデミア 立命21内3階
TEL: 075-465-8426 FAX: 075-465-8429 E-MAIL: kzoa@st.ritsumei.ac.jp
HP: <https://www.ritsumei.ac.jp/confucius/>

